

2024/02/06 9:00-16:00

「現代バングラデシュ」研究会

オンライン開催

報告要旨

タイトル：「在日バングラデシュ人ムスリム移民の妻たちの越境
—多自然主義の多文化共生を迎えた日本での現状と課題—」

発表：工藤昭子（国際武道大学）

1980年代から90年代に「出稼ぎ労働者」としてバングラデシュ人、パキスタン人、イラン人などが来日したが、それから30～40年後の2020年代における彼らが、どのような生活を移民として送っているのか明確に述べた先行研究がない。特にバングラデシュ人は移民労働者予備軍として留学生が多く、夫との結婚あるいは、夫が仕事を始めたことにより「家族滞在」在留資格を得て越境する移民妻も多い。彼女たちは日本で妊娠・出産・子育てを経験し困難に直面することも多い。本研究では元留学生の夫を持つバングラデシュ人移民妻の妊娠・出産・子育てにおけるカルチュラル・コンピテンスを事例として、彼女たちの越境について文化人類学的かつ社会福祉学的に考察する。言語や宗教が異なるだけでなく、医療文化や、教育文化、食文化など日常生活のあらゆるところで習慣や価値観が異なる中で、彼女たちがソーシャルサポートネットワークを使い、できるだけ宗教や習慣に沿う行動を目指すものの、自力ではどうにもできないことに直面した経験からどのようなカルチュラル・コンピテンスを獲得してきたかを考察し、日本社会の課題を提示する。